



© 2019 フジコ イトウ All Rights Reserved.

「いい香り」は本当にいい香り??

毎日の洗濯に使う柔軟剤、トイレや衣服、家具などにも使用する消臭剤、香水などには様々な化学物質が使われ、それによる健康被害が問題になっていることをご存知ですか。「隣の家の洗濯ものの柔軟剤のニオイで苦しい」などの健康被害の訴えは年々増加しているようで、私も、強い香水に頭が痛くなった経験があります。

こうしたニオイ被害の原因として、合成香料などが挙げられます。合成香料は、ベンゼンなど石油由来の化合物に、様々な化合物を加えて作られるもので「化学物質の塊」と言われます。最近流行りのアロマ油（エッセンシャルオイル）も100%天然と思いがちですが、バラやジャスミンなどの香りを抽出する際に有機溶剤を使うこともあり、その成分が残っていることもあるそうです。

欧米では『危険な贈り物—香水』という報告書が出たそうですが、香水に含まれる合成ムスク類などには、環境ホルモン作用があることが報告されています。こうしたニオイは、鼻や口、皮膚からも体内に入り、血液に乗って体中をめぐる。成分によっては体内で分解されますが、合成ムスクは分解しにくく母乳からも検出されているそうです。言い換えれば、赤ちゃんが知らず知らずのうちに化学物質を飲み込んでいくわけです。

また、最近、「香りが長持ち」といったコマーシャルもよく聞きます。長持ちさせるために、カプセルに包むわけですが、そのカプセルの材料として極めて毒性の強い“イソシアネート”という原料が使われている可能性が高いそうです。

なぜこうした危険なものが簡単に消費者の手に届くのでしょうか？
ひとつには、日本では企業の力が強く、消費者の健康より「儲け」を優先する傾向が強いため、欧米と比較して化学物質に対する規制が遅れているためです。

「規制がないなら、そんなに危険はないのでは？」と思われるかもしれませんが、日本では規制がないものでも海外で規制されているものがたくさんあります。また、何度も使ううちに、またいろんな種類を使っているうちに、人体に様々な影響を及ぼすこともあり、特に子供は体が小さいので、大人より大きな影響を受けることになります。

「やわらか仕上げ」や「においを消す」などのコマーシャルに惑わされず、できるだけ化学物質の使用を控えることが、あなたと家族の健康にとって、とても大切なことです。